

武蔵野赤十字病院 腎臓内科・透析センター



当科の概要

当院の特徴は、病診連携、病病連携が盛んで、紹介率、逆紹介率が高く、診療も急性期に特化した体制をとっている点です。腎臓内科は腎疾患を中心とした診療を行っています。循環器疾患や自己免疫疾患など他臓器疾患を合併した症例も多く、急性腎障害、電解質異常、慢性腎臓病保存期および透析患者の管理、アフェレーシスなどを行っています。

2020年4月現在、常勤6名(男性3名、女性3名)の体制で診療を行っており、東京医科歯科大学腎臓内科のローテーターで構成されています。日本内科学会総合内科専門医3名(指導医3名)、日本腎臓学会腎臓専門医3名(指導医3名)、日本透析医学会透析専門医3名(指導医2名)が在籍し、腎臓内科および透析センターを運営しています。

腎臓内科

腎臓専門外来は毎日開いており、紹介新患は年間 400 名を超えています。症例数が多いため、逆紹介も積極的に行い、地域の先生方と協力して腎疾患を管理しています。保存期腎不全に対しては、eGFR の変化率の経時的な評価や蓄尿検査による管理をし、腎不全進行の抑制に努めています。

2019 年度の腎臓内科の入院患者数は 555 名でした。紹介新患や救急外来からの入院が多いことが特徴で、緊急入院が全入院の 4 割を占めます。予定入院も含めると慢性腎臓病の症例が最も多いですが、急性腎障害、血管炎をはじめとした自己免疫疾患、ネフローゼ症候群、急速進行性糸球体腎炎などの症例も豊富です。腎生検は 2019 年度 37 件で、都立多摩総合医療センター、多摩北部医療センター、青梅総合病院、国立災害医療センターと合同での腎組織検討会を 2 ヶ月に 1 回、また当院単独での腎組織検討会を 2 ヶ月に 1 回行っています。東京医科歯科大学と連携しての腎疾患の遺伝子解析も行っています。治療に関しても、常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバプタン治療、およびステロイド依存性ネフローゼ症候群に対するリツキシマブ治療なども行っています。また常時複数の治験に参加しています。

透析センター

透析センターは 25 床で運営しています。維持透析患者の入院透析のほか、CRRT を含めた急性血液浄化、アフェレシスが多いのが特徴です。また外来維持血液透析や腹膜透析も行っていますので、血液浄化療法のすべての領域がカバーできます。

透析患者の新規導入は 2019 年度 93 例（腹膜透析導入 2 例）でした。合併症の検査および治療入院も多く、バスキュラーアクセス合併症に対しては、症例に応じて PTA、シャント再建術を施行しています。2019 年度のバスキュラーアクセス関連手術は 108 件、PTA は 61 件でした。病院全体が急性期に特化しているため、他科からの透析依頼が多いことも当透析センターの特徴であり、年間の新規取扱い透析患者数は 600 例に達しています。ICU など重症ユニット系病棟への出張透析も多く、2019 年度は 398 件でした。重症疾患に対するアフェレシスも実施しており、2019 年度は 110 件でした。また現在流行している新型コロナウイルスについても受入れを行い、4 月には維持透析患者の陽性者の入院透析管理を行いました。

労働環境

急性期診療が主体で新入院患者も多いため、一般的な腎臓内科に比べ患者の入替わりが激しく、重症度も高いです。このため業務は忙しいのですが、on-off を徹底し、ストレスがないよう心がけています。診療はチーム制をとっており、夜間勤務明けには帰宅できますし、土日祝日の当直勤務に対しては平日に代休を取得できます。また土曜祝日の日中透析当番体制（月 1 回程度）、および夜間休日の緊急透析に対応するための時間外オンコール体制（週 1 回程度）を敷いていますが、夜間オンコールで呼出しがあった場合、翌日は必要最低限の業務のみで早退できます。